

3 顧客のために

医療に従事するみなさまをサポートするために 新しいシステムを開発・提案しています

音声入力で電子薬歴を作成できる「ENIFvoice SP+A」、医療材料を分割販売する「ENIFme」、
薬剤師の業務を効率化する「調剤ENI-Pharma」シリーズ、
医薬品を簡単に注文できる情報端末「ENIF」などをご紹介します。

「ENIFvoice SP+A」によって、 薬剤師の業務をサポートします

音声入力によって薬歴作成の質の向上に寄与しています

東邦ホールディングスは、2009年6月に音声認識による薬歴作成支援システム「ENIFvoice(エニフボイス)」をリリースし、翌年5月にはさらに機能を充実させた後継機種「ENIFvoice SP(エスピー)」を発売しました。マイクに向かって話せば音声が入力されるので、効率よく正確に薬歴を作成することができます。

薬歴には、患者さまの体調の経過や服薬指導の内容、医薬品による副作用の有無などが記載されます。今後、調剤薬局では、「かかりつけ薬剤師・薬局」(後述)として、ほかの医療従事者と連携して地域医療に貢献することが求められますが、そのためには誰が見てもわかりやすく、内容もより充実させた薬歴を作成することが求められます。薬歴の情報量が増加することに比例して作成のための時間も長くなってしまいうため、薬剤師の事務作業効率を飛躍的に高める目的で、「ENIFvoice SP」を導入する調剤薬局が増えてきました。

「ENIFvoice SP」は、2016年11月末時点で全国の調剤薬局に7,285台導入されているほか、47の薬学系大学に教材として導入されています。

電子薬歴と一体型の「ENIFvoice SP+A」を開発しました

2016年6月には、「ENIFvoice SP」の機能強化版として電子薬歴一体型の「ENIFvoice SP+A(プラスエー)」を発売することを発表しました。電子薬歴がセットになることによって過去の情報に基づいた時系列的な服薬指導が可能となり、調剤薬局の職場環境はよりいっそう合理化されます。

「ENIFvoice SP+A」には下記の特徴があります。

• 音声認識辞書の充実

語彙数を5万7,000語から14万語へと3倍近くに増やしました。在宅業務の増加を見越して、とくに地名や病院名などの固有名詞を充実させています。

• 音声による画面遷移

アイコンやボタンをクリックするかわりに音声で操作を進

めていくことも可能です。

• クラウドでのデータ保管

音声認識は使うほどに言い回しやイントネーションを学習して使いやすくなり、その状態がクラウドに保存されます。いつもと違うパソコンや他の店舗で作業するときも、使いやすいくレベルアップした状態の音声認識を使うことができます。

• ヒアリング機能の充実

薬歴に記載すべき事項を患者さまからお聞きするときに、画面に回答例を示しながらアンケート形式でヒアリングすることができ、精度の高い薬歴作成につながります。オプションのタブレットを利用すれば、場所を問わずスピーディーにヒアリングできます。

• 服薬指導の支援

複数の医薬品の情報(飲み合わせの禁忌など)を一括して検索して閲覧できるので、患者さまにすばやく的確に服薬指導を行うことができます。

• 本部機能の搭載

各店舗が音声入力をいつどのくらいの時間で利用しているかを本部で把握できるので、業務改善に役立てることができ

ます。「ENIFvoice SP+A」は、2017年に本格上市します。今後も機能を拡充して薬剤師の皆さまが力を発揮できるようにサポートしていきます。



(左)「ENIFvoice SP+A」を使った服薬指導。(右)オプションのヒアリング用タブレット

医療材料を分割販売する「ENIFme」によって、在宅医療を支援しています

調剤薬局はさらなる進化をしていくことが求められています

地域医療の充実が求められるなかで、調剤薬局は「かかりつけ薬局になること」が期待されています。「かかりつけ薬

局」とは次の3つを満たす薬局のことです。

- ①ひとりの患者さまの服薬情報をひとつの調剤薬局が一元的に把握して、服薬指導や残薬の管理を行うこと。
- ②夜間・休日などの開局時間外であっても患者さまの相談に答えられる体制をつくること。また、患者さまのご自宅に向いて医薬品や医療材料(点滴用チューブや創傷被覆材、注射器)を提供し、服薬指導を行うこと。
- ③かかりつけ医や地域包括支援センター、訪問看護ステーションと日頃から連携をとって、患者さまのニーズに応じてそれらの施設を紹介すること。

「ENIFme」に登録すれば、医療材料を1個口から購入できます

東邦ホールディングスでは、「かかりつけ薬局」をめざす調剤薬局に対して、さまざまな「顧客支援システム」を提供しています。医療材料を分割して販売する「ENIFme(エニフミー)」(2012年リリース)もそのひとつです。これまで医療材料は大きな包装で流通されることが一般的で、医療機関では保管場所のスペースの問題もあり、多種類の医療材料を常時揃えておくことは困難でした。「ENIFme」に登録すれば、「ENIF」で医療材料のバーコードを読み取るだけで、医療材料を1個口からでも簡単に購入できます。

「ENIFme」を導入している施設は2016年9月末時点で1万1,700軒、取り扱い品目は約1万点です。最近はクリニックでの認知度が高まり、購入頻度が上がっています。



経腸栄養用のカテーテル



衛生材料(テープ)

医療材料の研修会を通して多職種間の連携を進めます

地域医療連携室では、「かかりつけ薬局」をめざす調剤薬局に対して情報の提供も行っています。訪問業務の始め方や医療材料の基礎知識と使い方を掲載した小冊子を作成して、MSを通して配布しています。在宅医療専門の医師の協力のもと、医療材料についての研修会も開催しています。

訪問看護ステーションへの医療材料についての情報提供も始めました。訪問看護師の方から、「在宅療養の患者さまやそのご家族から“医療材料はどこで手に入りますか?”と聞かれる」という話をよく聞かれます。訪問看護ステーションでは医療材料を販売することが認められていませんし、忙しい業務のなかで医療材料についての情報を得ることも簡単ではありません。訪問看護ステーションに「ENIFme」を導入している調剤薬局を紹介すれば、訪問看護師が「近くの〇〇薬局なら医療材料を購入することができますし、自宅にも届けてくれますよ」と患者さまにお伝えすることができます。医療材料についての研修会にも、調剤薬局の薬剤師だけでなく、医師や訪問看護師、ケアマネージャーが参加するようになり、在宅医療に携わる多職種の方たちの交流が進んでいます。これからも「ENIFme」を通じて連携を手助けし

て、患者さまがよりよい医療を受けられるように努めてまいります。

「調剤ENI-Pharma」シリーズは、 薬剤師の経理業務を効率化しています

調剤薬局における薬剤師の業務は、服薬指導や薬歴の作成だけでなく、医薬品の発注や在庫管理、会計など多岐にわたります。東邦ホールディングスでは、調剤薬局の業務効率化と新規業務への取り組みを支援するために、2013年に「調剤 ENI-Pharma(エニファルマ)」シリーズを開発しました。シリーズは「ENI-Pharma」「ENI-POS(エニポス)」「ENIF本部」「在宅ENIF」の4つの製品からなります。

近年、OTC医薬品や健康食品の販売が求められていることから、とくに「ENI-POS」の普及に力を入れています。「ENI-POS」は、調剤会計と物販会計(OTC医薬品や健康食品の販売会計)を同時に行えるPOSレジシステムです。POSとはPoint of sale(販売時点)の略で、お金の受け渡しをする時点で情報管理することを意味します。「調剤」と「OTC」のどちらかのボタンを押してからバーコードを読み取れば、それぞれを別の会計で記録することができて、経理の効率化につながります。「ENI-POS」は2017年1月からのセルフメディケーション税制に対応し、順調に導入台数が増えており、2016年11月末までに累計604軒に導入されています。

情報端末「ENIF」によって、日々の 医薬品発注業務を効率化しています

「ENIF(エニフ)」は、東邦薬品(株)とグループ会社が調剤薬局や病院、クリニックに提供している情報端末です。医薬品や医療材料、事務用品、医学書、一般雑誌(定期購読誌のみ)をバーコードを読み取るだけで発注できて、業務時間の短縮のほか、発注もれや発注間違いを解消できます。2016年9月末の時点で3万3,150台が稼働しています。

会員サービス「ENIFclub」で薬剤師のスキルアップを支援しています

「ENIF」を利用している調剤薬局向けに、「ENIFclub(エニフクラブ)」という有料の会員サービスも提供しています。たとえば、より高いレベルの知識と技術を持ちたいという薬剤師のみなさまに向けて、「薬剤師webラーニング」というインターネット講座も開設しています。これは(公財)日本薬剤師研修センターの研修制度に対応しており、「研修認定薬剤師制度」の単位を取得できます。「ENIFclub」会員は、2016年9月末時点で1万3,944軒です。今後もさまざまなサービスを通じて、薬局経営のお手伝いをさせていただきます。